

# 日本高齢期運動連絡会ニュース

発行責任者 藤谷 恵三 発行所 日本高齢期運動連絡会  
〒164-0011 東京都中野区中央5-48-5 シャンポール中野504号  
TEL/fax03-3384-6654 E-Mail nihonkouren@nifty.com  
http://www.nihonkouren.jp

発行：毎月1日  
2016年9月1日  
No.313



「第30回日本高齢者大会in東京」 記念講演：鳥越俊太郎氏（＝8月29日東京国際フォーラム）

## 第30回日本高齢者大会in東京 ご協力へのお礼

### 1万人が「いのちを輝す」運動を学び交流

8月28日、29日、巣鴨の大正大学と東京国際フォーラムで開催した「第30回日本高齢者大会in東京」は、述べ1万人を超える全国からの参加者で無事終了する事ができました。

本大会の開催にご尽力、ご協力いただき心から感謝申し上げます。

30周年を迎える今大会は、①「戦争法廃止」の政府づくり運動と社会保障充実・人権擁護運動の交流と学びの場とすること、②高齢者を社会的に孤立させないとりくみの交流と地域の高齢期運動連絡会活動の飛躍をつくる場と

すること、③30回記念大会として過去最高規模の10,000人（2日間述べ）で成功させること、の3つを目標に開催しました。

28日の学習講座や分科会では、高齢者のくらしの危機、日本の進路、そして、地域を基礎に高齢期運動をどう発展させるか、などが活発に話し合われました。従来への倍の規模となる24の学習講座と16の分科会、夜の講座には、4,800人が参加し、一流の講師陣を迎え、子育てや教育問題、環境や都市災害の問題など新しいテーマでの学習や交流が行われました。

29日の全体会には、5,200名を上回る参加があり、東京都知事選挙をたたかった鳥越俊太郎さんが記念講演を行いました。鳥越さんは、「衆議院選挙でも野党共闘が必要。高齢者の皆さんに期待しています」と述べました。文化行事では、明星学園の和太鼓、500人を超える合唱団の歌声などを楽しみました。

また、若者の分科会が開催され、全体会でも戦争法に反対するママや若者からの発言があり、高齢者だけでなく若者も含めた全世代のための高齢者大会として、所期の目的を達成する事ができました。

あらためて、お寄せいただいたご厚情に心から感謝を申し上げます。

第30回日本高齢者大会in東京では、大会参加者の決議として、①「高齢者ならではの」力を発揮し戦争法廃止・憲法を守る運動の先頭

に立ち、来年の沖縄大会にむけ沖縄での辺野古、普天間、高江などの基地と全国にある米軍基地撤去の運動にとりくむこと、②高齢者の目の前にある困難を一つひとつ解決する運動にとりくむこと、③市町村に高齢期運動の地域連絡会をつくり、地方議会への議会請願や議会傍聴を行う「議会オンブズマン」活動を展開すること、の3点を確認しました。

今後とも、日本高齢者大会とそれを支える日本高齢期運動連絡会の活動にご理解、ご協力をお願いし、大会成功のお礼のご挨拶とします。まことにありがとうございました。

2016年9月1日

第30回日本高齢者大会in東京  
中央実行委員会委員長 富田 浩康  
東京実行委員会委員長 石川 徹

～「憲法をいかし戦争法廃止を  
いまこそ人間らしく生きるために手をつなごう」～

## 「第30回日本高齢者大会in東京」に延べ1万人超え

「まちから村からの連帯でひとりぼっちの高齢者をなくそう～憲法をいかし戦争法廃止をいまこそ人間らしく生きるために手をつなごう！」をテーマに「第30回日本高齢者大会in東京」は、2016年8月28日・29日の2日間にわたって開かれました。



1日目は会場となった大正大学（豊島区）で合わせて55の学習講座・分科会・シンポジウム・移動分科会・江戸文化・交流と多彩に繰り広げられました。



2日目は東京国際フォーラム(千代田区)を会



場に開かれました。オープニングは500人の大合唱で幕を開けました。

司会：加藤頼さん(俳優)・糀谷陽子さん(都教組)



来賓あいさつ＝宮本徹衆議院議員

富田浩康中央実行委員長の主催者あいさつ、石川徹東京実行委員長の歓迎のあいさつ、来賓あいさつは宮本徹衆議院議員（日本共産党）、藤谷恵三中央実行委員会事務局長の基調報告、ジャーナリストの鳥越俊太郎さんの記念講演「戦後70年 日本の未来へのメッセージ」で「ここに集まった皆さんと多くの国民と手を携え、全野党の統一で横暴な安倍内閣にストップをかけ、現在の危機的な情勢に対抗しましょう」と訴えました。

幕間に中島香織さん（東京民医連）が「大会

カンパ」を訴えました。

開催しました。

続いて、50人の皆さんによる明星学園(東京都三鷹市)の和太鼓演奏は、高齢者の怒りと今後への決意を反映するかのような勇壮で腹の底に響く素晴らしいパフォーマンスでした。



「若者からのメッセージ」は、石川 澄江さん(安保関連法案に反対するママの会)「この子が平和でのびのびと育つ社会にしたい」と訴え、保科 博一さん(新宿一般労組)「高齢者と若者もみんなが安心して支え合う社会をつくりましょう」と呼びかけました



若者からのメッセージ＝石川澄江さん



若者からのメッセージ＝保科博一さん

大会決議「高齢者の尊厳と暮らしを守り、社会保障の充実を求める！」は、山元美奈子さ

ん(新日本婦人の会)が読上げ全体の拍手で採択しました。

そして、東京都から次回開催地の沖縄県への「大会旗引継ぎ式」が行われ、次回開催地の沖縄の平良宗潤(たいらそうじゅん)さんが決意表明し、次回の実行委員会を担う沖縄医療生協の10人を紹介すると会場から大きな拍手が湧きました。



沖縄医療生協の皆さん

閉会挨拶：森田 稔東京実行委員会副実行委員長に続いて、フィナーレは500人のシニア中心に結成された高齢者大会合唱団と会場の参加者が、「沖縄を返せ」と「青い空」を大合唱し、2日間の大会を終了しました。



閉会挨拶＝森田稔 東京実行委員会副実行委員長



この大会には、46都道府県から団体・個人など2日間で延べ1万人(28日4,800人、29日5,200人)を超える参加がありました。

### 第30回 日本高齢者大会 2日目記念講演 要旨

「憲法70年 未来へのメッセージ」  
ニュースの職人 鳥越俊太郎氏

記念講演の講師はジャーナリストの鳥越俊太郎氏で、テーマは「憲法70年 未来へのメッセージ」として行なわれました。

鳥越氏はこれほど多くの人に集まってもらったのは初めてだと感謝の言葉を述べました。そして、「都知事選では全力を尽くしましたが期待に応えられず、申し訳ありませんでした」と述べ、「女性候補が、自民党都議会に挑むか弱い女性という役を演じ切り、浮動票を持って行ってしまった」と感想を話しました。また「日本人には風に吹かれやすい、同調しやすい文化があり、流されずに、正しいことは正しいと言えるようにしなければならない」と訴えました。

そして、選挙に立候補した経緯について、

「参議院選挙の結果を見て、このままでは大変なことになると思ったからだ。政党から要請されたからではない。戦後初めて、与党が衆参で3分の2以上の議席を取り、改憲発議が可能となった。国民の多数が憲法改正にはNOの意思を示しているが、日本人の中には風が吹くと飛んで行ってしまう人たちがいるので、憲法改正の国民投票一步手前だという情勢の中、ならば「ストップ・ザ・アベ」の旗を東京から掲げようと考え、自分から手を挙げた」と述べました。

選挙戦の中で、「国政の話ではなく都政の話をしろ」とよく言われたそうですが、鳥越氏は「都の問題はもちろんだが、東京は日本の中心であり、東京で非核都市宣言をしたいと思った。オバマ大統領は「核無き世界」を語っただけでノーベル平和賞を受賞した。核には二つの意味があり、一つは核兵器、もう

一つは原発で、どちらも同じ核分裂だ」と指摘しました。そして、オバマ大統領が「核先制不使用」を検討していることに安倍首相が反対したという報道に接して、「真偽はわからないが、日本政府がアメリカの「核の傘」がなくなると困ると思っていることは確実だ」と述べし、「核先制不使用を全ての国が宣言すれば核兵器は使われなくなるのであり、日本は唯一の被爆国として役割を果たすべきだ。そして原発をゼロにすべきだ」と訴えました。

さらに、「今日一番申し上げたいのは、安倍政権の危うさだ」と話を進め、自らが昭和21年に小学校に入学した戦後の平和と民主主義の教育の一期生であり、小さい頃から新聞を読むのが好きで、その後、ラジオ、テレビへと関心が広がったこと、自らの経験から見ると、「日本の政治はとんでもないところにきている、安倍政権は独裁政権になっているという印象だ」と話し、「アベドルフ政権（安倍とアドルフ・ヒットラーをつなげた造語）という言葉も聞かれるようになっていく」と指摘しました。

さらに、「第一次安倍政権は、日本を『美しい国』に変えようとして、あっという間につぶれた。第二次安倍政権は経済優先を打ち出し、国民は『アベノミクス』という言葉にだまされてしまった」と述べ、「個人消費は増えていないが、それは将来に不安があるからお金を使えないからだ。かつては高度経済成長という、どんどん経済がよくなっていく時代があり、安倍総理は『この道しかない』と言ってアベノミクスを進めてきて何となく昔のようによくなっているという印象を作っている。これに国民はだまされている」と指摘しました。さらに「安倍政権は、その陰で、特定秘密保護法、集団自衛権行使容認の閣議決定、安保法制などを次々と通した。これらは国民の意向を踏みにじて暴走する独裁政治だ」と訴えました。

また、「南スーダンでは政府軍と反政府軍の戦闘が起こっている。改定PKO法で『駆けつけ警護』が可能となり、まもなく青森の第9梯団が派遣される。他国のPKO部隊やNGOが攻撃されていたら自衛隊が駆けつけ

て、応戦することになる。当然、銃を撃つことになり、双方に犠牲者、加害者が出ることになる。それが現実になりつつある。」と話しました。そうなれば、世界中のどこに行っても戦闘行為に巻き込まれる恐れがあり、戦闘をし、相手を殺せば恨みを持たれ、日本が「敵」と認定されることになり、「イスラム国などのテロリストなどに『敵』と認識されることが最も恐ろしいことだ」と述べました。

鳥越氏は、衆議院の安保法制審議で参考と呼ばれた際、「日本は平和国家でなくなる危険がある」と指摘し、「新幹線がテロの対象となって多くの犠牲者が出る恐れや、原発は停止していても核物質があるので危険だ」ということなどを述べたそうです。

最後に、今、私たちは安倍政権によって危険な橋を渡されようとしているということが話されました。「次の衆院選挙でも与党が3分の2以上を取れば大変なことになる。共謀罪が「組織犯罪準備罪」と名前を変えて準備されており、計画を話ただけで罪になる法律がつくられようとしている。そうすると今日の高齢者の集会も政府に反対する「共謀」とされ。ここにいる5,000人が犯罪者の対象になる」と述べました。

そして、安倍政権が戦後最悪の政権だということを、アベノミクスでは給与は上がっておらず、年金積立金がアベノミクスのための投資に回され、食いつぶされていることを、数字をあげて説明し、「我々の年金掛け金を使ってギャンブルをしているということだ。それを『経済がよくなっている』という国民だましに使っている」と指摘しました。

そして、「安倍政権は『この道しかない』と言うが、そんなことはない」と鳥越さんは断言しました。「違う道を取る心構えを持って次の衆議院選挙に臨もう！ 野党4党がもう一度共闘して、安倍政権反対の一致点を手をつなぎ、自公に3分の2を取らせることがないようにしよう！ 戦後民主主義の道を私たちが歩けるようにしよう！」と呼びかけました。

(医療生協さいたま小野民外里さんの記録をもとにまとめました)

## 第30回日本高齢者大会in東京 大会決議

高齢者の尊厳とくらしを守り、社会保障の充実を求める！

日本の65歳以上の高齢者は3,000万人にのぼっている。私たちは、戦前、戦中、戦後の困難な時代を乗り越え、日本社会の発展のためにつくしてきた。

老人福祉法は、高齢者を「多年にわたり、社会の進展に寄与してきた者」「豊富な知識と経験を有する者」として「敬愛されるとともに、生きがいをもてる健全で安らかな生活を保障されるもの」と謳っている。高齢者が安心してくらす社会をつくることは政治の重要な責任である。

しかし今、貧困や格差の拡大、社会保障の連続改悪などにより、多くの高齢者のくらしが破壊され、「老後破産」「下流老人」「介護殺人」などと呼ばれる事態が進行している。年収200万円以下の高齢者世帯が4割を占め、生活保護受給者の半分は高齢者であり、2週間に1度の介護殺人が起きていると言われている。

こうした現実にもかかわらず、参院選後、安倍政権は医療、介護、生活保護など社会保障大改悪の具体化を社会保障審議会の各部会などですすめている。

私たちは、政府に対し、高齢者のくらしと健康、尊厳を踏みにじるこれらの政策を転換し、安心して老後をすごせる社会の実現に向かうよう強く要求する。この要求はすべての世代のくらしの向上と明るい未来に直結する課題

である。

私たちは、第30回日本高齢者大会in東京において、以下を決議し、広範な市民と共同してその実現に全力を挙げる。

記

1. 安保法制（戦争法）を廃止し、憲法9条を生かした平和外交を行うこと。
2. 「核兵器のない世界」をめざし、被爆国の政府にふさわしい役割を果たすこと。
3. 後期高齢者医療制度を廃止し、国保料の引き下げや窓口負担の軽減など安心してかかれる医療制度にすること。
4. 介護保険の重い保険料・利用料の負担を直し、深刻な介護施設や介護職員の不足などによる「保険あって介護なし」の事態を解決するよう介護保険制度を充実させること。
5. 低所得・低年金の人も入れる高齢者向け住宅の増設を行うこと。
6. 年金削減をやめ、最低保障年金など今も将来も信頼できる年金制度を確立すること。年金積立金の高リスクな投機的株式運用をやめること。
7. 意欲と能力のある高齢者の雇用を促進し、年齢による賃金差別をなくすこと。
8. 沖縄の民意を尊重し、辺野古の新基地建設や高江のヘリポート建設をやめること。

(宛先)内閣総理大臣、厚生労働大臣、国土交通大臣、総務大臣、財務大臣、外務大臣

2016年8月29日

第30回日本高齢者大会in東京



## 沖縄から日本の平和と民主主義を問う

引き継ぎのあいさつ

沖縄医療生協 理事 平良宗潤

日本高齢者大会への参加は三重大会に次いで2度目です。そして参加して驚くことは大会規模の大きさ、地方大会でも参加者が毎年5、6千人、この30回東京大会は目標の1万人を超えている。参加人数だけでなく、そのプロ

グラム・内容が多岐・多様な企画で構成されていることに驚嘆しています。

このような集会を沖縄でも是非開きたいと密かに思っていました、それが来年実現することになり、これ以上の喜びはありません。

この大会には沖縄医療生協から10人が参加し、大会の組織、運営等について多くを学んでいます。すでに理事会は、大会準備のために専従の事務局長を置き体制を整えつつあります。

さて、みなさん、来年は日本国憲法施行70年に当たります。思い起こしてください。この憲法が制定されたとき、沖縄は米軍の全面占領下にあり、祖国日本から分断されていました。私たちが「日本国民」としての地位を獲得するのは施政権が返還された72年5月15日以後のことです。しかしながら、憲法の上に安保条約と地位協定を戴く歴代の政権によって沖縄は未だ「基地の島」であり続けています。

復帰後の沖縄が日米安保体制の要になっていることは周知の通りです。しかも日本国民の大多数がこの安保体制を存続させることを容認している状況の中で、沖縄県民の基地との共存はいつまで続くのか。ジョギング中の若い女性の身の安全さえ守れない安保とは一体

何か。日米安保条約が日本の安全と平和に欠かせないとしても、一部の地域や人びとにその負担や犠牲を強いることが許されるのか。沖縄県民は70年以上問い続けてきました。

沖縄問題は沖縄だけの問題ではない。日本の平和、民主主義に関わる日本国民全体の問題です。辺野古、高江に象徴される基地問題の根源は、日米安保体制にあり、沖縄の民意を無視して日米政府が基地の存続・強化を図ろうしていることにあります。沖縄は今この「基地・安保のくびき」を断ち切ろうとしています。オール沖縄からオール日本をめざし、平和憲法の下で自由で豊かな暮らしのできる新しい国を実現したいと思います。

私たちは、この東京大会が掲げた目標、「戦争法廃止」の政府づくり、高齢者を社会的に孤立させないとりくみ、をいっそう発展させるために、沖縄の地で何ができるか具体的に検討し、沖縄医療生協として総力を挙げてその準備に取りかかることをお約束し、次期開催県としての挨拶とします。

---

## 参加者の感想から

第6教室 日本「総下流化」を防ぐために

こういう分科会に沢山の人が参加することは政治家にとってはこわいことだと思う、と下流老人問題は、そのまま若者の生活と直結する。若者も大切に作る国にしよう。闘技的の民主主義、そろそろ社会を変えようよ若い講師さんなのに良く研究しておられ歯切れもよくわかりやすかった。暗いテーマを出来るだけ明るくとユーモアもあり良かった。(79歳 女性)

遺品整理の現場を15年見続けた吉田さんならではの、孤立しないための处世術というものが、楽しく学習できました。高齢者男女の実態は「女の活路、男の末路」正にその通り。人とのコミュニケーションをおっくう、わずらわしいと思うようになったら終わり通常自分に言い聞かせておりますが、それが大事と痛感しました。高齢者の自立、又、共助の大切さ(自立と共存)

若者の孤立化を促進させる日本の社会状況が気になります。若者のおっくうだ、煩わしいという言葉が多く聞かれます。自分の最後をとりあえず決め、それに向かい生活設計を立てて充実した生活をする……実践してみようと思います。(67歳 女性)

高齢者の働きがい・生きがいについて、全国の方々から貴重なお話を頂きありがとうございました。年金者組合の前進はとても大切かと思えます。高齢者として何をすべきか、どう生きるべきか、いろいろ考えますが、今、講演会とかアピールの集会、いろいろな団体の行事に参加しています。そこで思うことは、①どこへ行っても同じような顔の多いこと。②高齢者の方が多いこと。毎年同じような方がだんだん年をとってゆくこと。高齢者の方々と友だちになり、仲良くお付き合いすることはもちろんですが、若い方々とも常に友だちになり話し合いをすることが大

切かと思っています。演説会などに参加して感激し、「よかった、よかった」とやる気を起こし、元気が出ます。が、「覚悟や決意だけでは物事は進まない」と考えます。いつもいつも「手だて」や「手段」を追求し、考えることが大切かと思っています。どんな集団でも政党でも組合でも団体でも、その前進のために、①集団成員の人数をどんどん増やす活動がある②集団の目標を成し遂げるための不断の仕事がある③それらを前進させていくリーダーがいる。これらを進めるための「手段」や「手だて」がいつも話し合われなければ組織そのものがしぼんでしまうと考えます。

(86歳 男性)

第14分科会に参加しました。ながおか医療生協、白十字の実践報告は、それぞれ「地域包括ケア」を住民主体の「安心なまちづくり」ととらえ、多面的に展開されていることに共感しました。

ながおかの報告では、医療・介護は勿論、生活支援・住まい・子ども達の通園施設まで、多分野にわたる事業と活動を通じて、子どもから元気な高齢者の生きがいをサポートしていること、白十字では、地域の医療機関・包括支援センターとの連携、30人もの住民ボランティアの参加、医療・介護の学習会まで、それぞれがこれからの地域に求められていく先進的な取り組みだと思っています。

地理的条件など恵まれたこともあり、どこでもこのようなことができるとは思いませんが、自分の住む町なりに”住民主体の地域包括ケア”実現に頑張りたいと思います。

(82歳 女性)

若者と高齢者が分断される中で、高齢者大会では、交流のなかった若者の、働き方・生活実態が、第5分科会で初めて交流・報告されたことは大変良かった。

(70歳 男性)

「子どもの貧困を考える」と「住民主体の地域包括ケアをめざして」に参加しました。

お金がない、食事が食べられていない、人との交流がない・・・大人と同じだと思いま

す。高齢者も対象の食堂を作ったり、塾を開いたり。地域包括も含めて全体構想が出来て自分達の暮らす町が良くなればと思います。

(44歳 女性)

全国から沢山の方々が集まった日本高齢者大会、感激だった。

今この国を考えるとじっとしてられない、そんな思いでの人達だと思う。

私たち、戦争を経験した者として再び戦争をする国にしてはならない。そのために声を挙げ行動しよう。まだまだ頑張るぞとの思いを強くした大会だった。戦争法は廃止させよう。あの素晴らしい太鼓の演奏をしてくれた若者を戦争などで殺してはならない。

(79歳 女性)

高齢者パワーに大変驚かされました。

今、世代間で対立している場合ではありません。年金がもらえるのか、必要な時に医療や介護が受けられるのか。今の政権下では将来に対する不安しかありません。私は今1才半の娘の育児をしています。同じママさんが頑張っている姿に勇気づけられました。安保法は絶対に許さないです。戦後築かれた平和を娘やさらにその先の子どもたちへ繋げていけないといけないと感じました。(鳥越さんのお話を聞いて、さらにその思いは強くなりました)

和太鼓の演奏も素晴らしく感動しました。本当は昨日も参加したかったのですが、子供がいて参加できませんでした。今後、若い世代も参加しやすいように、保育があるといいなと思います。

(29歳 女性)

明星学園和太鼓部の演奏は実に圧巻でした。素晴らしい演奏をありがとうございました。

(73歳 女性)

若者のメッセージ大変良かった

(67歳 男性)

オープニングの♪若々しい歌声♪で感動しました。

(71歳 女性)